

第4回

宇城市まち・ひと・しごと創生有識者会議議事録（概要）

日時：平成27年11月6日（金） 14：00～

場所：宇城市役所 2階 庁議室

1 開会

2 議事

（1）前回の振り返り

（2）総合戦略骨子案「しごと（農業関係）」、「ひと」、「まち」について

「第4回宇城市まち・ひと・しごと創生有識者会議事前検討依頼事項」についての意見交換

3 その他

次回有識者会議：総合戦略（案）の確認及び意見交換

4 閉会

【配布資料】

（事前送付資料）

- ・「第4回宇城市まち・ひと・しごと創生有識者会議事前検討依頼事項」
- ・日本版DMOについての紹介資料

（当日配布資料）

- ・各委員からの具体的施策の提案書

【第5回会議】平成27年11月30日（月）午後2：00～庁議室



【日程変更】平成27年12月15日（火）午後2：30～庁議室

1 開会 (事務局)

2 議事

(1) 前回の振り返り (事務局報告)

(2) 総合戦略骨子案「しごと（農業関係）」、「ひと」、「まち」について 【前回の残り議題：農業分野について】 (事務局)

- ・農業は宇城市の主要産業。しかし労働生産性（1人当たりどれ位稼いでいるか）は県内でも低いという統計が出ている。荒れている農地もある一方、販路を開拓されている農家もある。今後は稼げる農業を目標に掲げている。
- ・平均年齢が高くなっている中、稼げる農業になることが前提。農家、行政、委員の皆さまの情報や協力を得ながら考えて行きたい。
- ・宇城市の中で売上額2千万円を超えるトップクラス農家の売り上げを更に伸ばしていけば、新たな雇用の可能性がある。特に人口の減少が著しい三角地区は農業者の雇用が人口を維持していく一つのポイントになる。
- ・農産品の加工・商品化については高齢の農家の方が増える中、6次産業化は難しい部分もある。農家が生産したものを別の企業などが加工して付加価値を付けて販売という手段もある。
- ・生鮮野菜としてではなく、コンビニや外食チェーンのサラダとして加工販売するにはどういった取組みが必要なのか、など。
- ・農商工との連携については、これまでは基本的に市場に出荷してスーパーに卸していたが、インターネットや直売所を通じて直接消費者に販売する形態も増えている。物流コストを下げたという形で出来るのだろうか、など企業誘致の観点も踏まえて様々なご意見をいただきたい。

(会長)

- ・これを踏まえてのご意見・お考えをお願いしたい。

(委員)

- ・地区ごとでは百貨店と商談されているケースもある。宇城市に関して言えばマッチングしてみないとわからないと思う。バイヤーとの交渉を経験することでニーズを的確に捉えることが出来るのではないか。

(会長)

- ・農業法人の支援、6次産業化の支援制度がある。こうした取組みに参加希望する農業者が

どれだけいるのか。民間のこういう取組みを利活用しつつ農業分野とマッチングさせる事が重要。

(委員)

・トップクラスの農家について、農業生産法人に関してはある程度把握ができるが、個人の農家に関してはなかなか状況が分かりにくいので取り組み方に悩んでいる。

10月に県南地区の食の商談会を八代市で開催。来年も商談会開催予定。お客様のニーズがある所には、生産拡大、地元企業の為に尽くす取組みをしていきたいと考えている。

・農業は生産してルートを通じて販売するイメージを描いているが、今は販路拡大をしているのも事実。例えば宇城彩館は熊本県でもNo.1と言われるくらい、良い品物を高額で販売している。それも一つの、生産者に対する販路。

生産した農産品のB級品を加工して販売することは宇城市でできないものか。芦北の農協はいろんな物を加工生産して全国に発信している。

みかんやトマトを加工して、製品にして販売すれば、農業者の稼ぐ場が拡大していくのではないか。

(事務局)

・税制上、法人化のメリットは高いと言われている一方、宇城市で法人化されている農家は20%の現状。これを含め、今後農業を伸ばすにあたり、商工会との連携の可能性や地元住民が耕作放棄地に対して感じている部分を聞きたい。

それから、介護施設などで提供している食事の材料の仕入れ先など、宇城市で地元の農産品はどれくらいの需要があるのか？

(委員)

・1日500食以上の食事を作っているが、なるべく地産地消に努めている。果物が必要な時は宇城彩館に買いに行ったりもしている。それだけ宇城市は野菜や果物が豊富な所だと思う。

天草でオリーブ園をやっていて評判が良い。福岡からバスで天草にオリーブを目的に来ているという話を聞く。宇城市もデコポンなどあるので、集客する事も必要。

(会長)

・天草オリーブは企業が参入し、農業法人の先駆的事例。観光地としても機能している。

(委員)

・市内ほとんどの保育園、幼稚園はおそらく地元の卸兼スーパーなどを利用して地産地消していると思う。ただ、直接農家の方と契約している所はほとんどないと思う。お米についてもJAを通して。理由としては安定供給が必要で代替野菜などが無いと困るため。

・農商工連携について、取組みたいと検討しているが、原料の確保も含め簡単にいかない。生産者から仕掛けていくのがいいのではと思う。

果汁やショウガを搾ったものなど、一次加工されたものがあると、加工業者も使いやすいし、飲食店も使いやすいのではないか。

・農業従事者の方に話を聞いたが、後継者がいないので農業をやめてしまう。一方ではやりがいのある仕事なので都会では農業をやりたい方はいるのではないか。そのコーディネートをしてもらえると本当に助かる、という話を聞いたことがある。

(会長)

・うまく宣伝している所は受け入れ対策もうまくいっている。

空き家対策や耕作放棄地や農業の件は複合的に絡まっている解決すべき問題。宇城は田舎ではない、普通に暮らせる地域。そのようなメリットをうまく発信しているのか。

空き家バンクだけでなく、就労支援や新規就農などの助成も含めるなどして総合戦略と合致させて情報発信をしていきたい。

(委員)

・現在、小学生に田植え・稲刈りの体験をさせている。新しい喜びとして、子ども達に農業に対するアドバイス、指導などをしながら、子どもの教育をしたいと考えている。

・経験のない方が農業をしても厳しい。その中で法人化された所に従業員として入り収入を安定させないと厳しい。

法人化するといっても、土地は個人から借りるという形にするとか、視点として非常に大きくなってくるのではないか。

(会長)

・いろいろな農業体験をさせると、地元の子供達と農業の距離が近くなる。

法人化してノウハウを教えて、地元に戻って農業をやるとするのが理想。

若年層に対して年1回のイベントではなく、定期的に経験を伝えていくシステムが必要ではないか。

(事務局)

・みなさんからのご意見の通り先導的農家の育成を目指している。

また、法人化して法人雇用を作ることによって販路の拡大が出来る。

法人雇用の中での経営ノウハウを学び独立していく。それが休耕地の対策にもなっていく。そこで今回の「ひと」・「まち」の部分になっていく。

(2) 「第4回宇城市まち・ひと・しごと創生有識者会議事前検討依頼事項」についての意見交換

(事務局)

① 【日本版DMO体制整備】(資料9頁：観光事業の一本化)

・三角西港が世界文化遺産として認定をされたことで、みなさまからも観光分野の振興というご意見を多くいただいた。

【観光振興の観点とは】

- ・お客さんに来てもらう
- ↓
- ・地元で買い物をしてもらう
- ↓
- ・地元の活性化に繋がる
- ↓
- ・地元の雇用に繋げる
- ↓
- ・地域を知ってもらいリピーターになってもらう

DMOとは、“観光で宇城市が稼げるようになりましょう”ということ。

- ・西港が世界遺産になってから、三角の飲食店や個人店はどれくらい売り上げが上がったか？

そこが見えていないのが観光事業についての大きな課題である。

観光の波及効果はどのくらいあるのか、西港をはじめ宇城市に観光に来られているのはどういう方か、など今は観光の現状がわからない状況。

(資料6頁：なぜDMOが必要か？)

様々な団体が観光イベントやパンフレット作っているが、その効果が見えていない。どう繋がっているのか等。課題を先にあげたが、問題点を解決していったきちんと観光で稼げるようになりましょう、というのがDMOの基本的な主旨。

DMOはどのような形でも良いが、今までの宇城市の観光事業に対する取組み方を変えていくことを目指している。

地元住民の方たちと合意形成を図っていく取組みを進めていきたい。

(会長)

- ・観光分野のキーワードとしてDMOが出ている。

観光分野についてみなさんのご意見をお願いします。

(委員)

- ・先日、JRの歩こう会が開催された時はたくさんのお客さんが来られた。イベントがあれば人が集まる。

西港の課題は国立公園の範囲以内ということで、営業時間や出店にいろいろな規制があること。イベント時だけの出店や夜の営業が出来ないのは厳しい。

- ・西港は素晴らしい場所だが、滞在時間が短い。

戸馳のランや松合の白壁土蔵などがある。みかんやイチゴもある。

宇城彩館やアグリパークもある。それを一体的に組み立てて熊本市内から日帰りで回ってもらってはどうか。

バス会社、観光会社に依頼してツアーを組んでもらう等の努力が必要。他地域とも連携して

西港にも来てもらうのも一つのやり方。

天草宝島観光のように、宇城市でも情報を一つにまとめて効率的な観光のやり方をやってほしい。

・宇城市の観光で泊まりが厳しいなら日帰りに来てもらえるものを考えていけばよいのでは。三角のこの時間帯のここで見られる夕日は最高というスポットを作れば西港に来たついでにそこにも立ち寄るのでは。

観光資源として、地元の力で掘り起こしをし、スポット化させ戦略的に魅せていくというのを考える必要がある。

・大分や阿蘇ではグリーンツーリズムなど、若い人への体験・宿泊が発達している。体験型で人を呼び込むというのも活性化の一つ。

・三角の飲食店の冊子などはある。去年のポスターコンテストに参加した飲食店を全店舗追加掲載しリニューアルしたものを準備中である。同じ宇城市内にいても情報の共有が出来ていないというのが現状で、これをどう発信していくのかというのが大事なところ。

三角西港では珍しいスナメリが見られるが、これまでアピールしていなかったが、最近カンバッチを作ったりしている。

地元にいると見落としているものがよそから見れば観光資源になり得るものがあるかもしれない。

・世界遺産登録前と後では観光客数がはっきりと変わってきている。ＪＲの「Ａ列車で行こう」の運行が始まってお客さんも増えているが、西港には少し滞在して天草で泊まって帰る、という状況。

観光施設に求められるのは経済効果である。

宝物があるというだけでなく、宝物を活かすという方法を何か仕掛けていかなければならない。

花の学校～松合の白壁土蔵まで十分観光コースとしてやれる。これを商品化してみてもは。これからどんどん外国人が観光にやってくる。その受け皿として、食べる処や土産品、泊るところを用意する。

今、市が調査している三角の空き家を民宿に活用できるのか、どんな許可がいるのかなど調べて地元提案して行けばどうか。

（会長）

・観光というのはいろんな捉え方がある。地元の人が、ここが観光地だと思っていないと観光地にはならない。

ＪＲがきている内にならず自治体が反応すること。儲かる知恵をくれる。

多くの自治体は観光に関する基本的なデータがほぼゼロ。少なくとも自身が携わっている組織のデータを持つこと。数値データに基づいたプランが出来る。

市は宇城市版の「地域産業連関表」を作ってください。波及効果はデータに基づけば根拠が出来る。

② **【稼げる人材の誘致】**（資料 10 頁：UIJ ターン起業）

（事務局）

- ・それぞれの各団体のデータで可能かどうかご意見をいただきたい。

（会長）

- ・資料 10 頁の問いかけについて、現時点でどの程度対応可能かお答えいただきたい。

（委員）

（空き店舗のリスト化について）

- ・商店街組織がある所については空き店舗の情報については持っていると思う。商工会でデータは持っていないが商店街を通じて協力できると思う。

・商店街のシャッターが下りたお店を開けてまちなか図書館を作ろうと動いている。それを受けて近くのお店の人がミニシアターをやろうとか画廊喫茶が建設中だったり、駅前にレンタカーが出来たりと商店街の内容が変わりつつあるなど感じている。これらを起爆剤にして、これから発展的に行けば空き店舗対策にもなるのではないかな。

（事務局）

- ・ビジネスマッチングについて、商工会で空き店舗情報など対応できるか？

（委員）

- ・創業に関する支援は商工会としてプログラムはある。どうマッチングするかになる。

（事務局）

- ・比較的立地条件が良いなどの情報を集めて、金融機関と組んでのマッチングを今後の連携として考えられるか？

（委員）

- ・開業や空き店舗に関わることは個人情報絡んでくる。秘密保持契約を結んだ上での連携は可能である。

③ **【空き家問題】**（資料 11 頁：検討事項）

【空き家ドナー制度】（資料 12 頁：検討事項）

（事務局）

- ・現在、宇城市では空き家が非常に多いが空き家バンクへの登録数が増えないことについてこういった課題があるのか？ 75 歳以上の高齢者が多い宇城市において、10 年後には空き家の数が更に増えることを危惧している。

（委員）

- ・空き家が増えているのはひしひしと感じる。市の空き家全棟調査が始まり、とても助かる。空き家といっても売買出来そうな空き家、廃屋寸前の空き家などいろいろな種類があるので、空き家の状態をみんなで確認・意識共有したい。

(会長)

・空き家になってからではハードルが高くなる。空き家になる前にドナー制度などで意思決定をするのも良い気がする。

(事務局)

・空き家になる前に意思決定をしてもらうのが基本的には目的。空き家になる前に、家の管理などを今後どうするかドナーカードのような制度を将来的にしたい。今後間違いなく増えて行く空き家問題は地域全体の課題として考えていただきたい。

(会長)

・空き家になってからでは対応も難しくなるので空き家になる前に日常的な対話の中で、地域でどうかしようという風になればと思う。

(委員)

・空き家になった家にまだ仏壇があるなどの理由で貸し出されていない。また、修繕費がかなりかかるなど貸す方も二の足を踏んでいる。区の中ではなるべく話題にして空き家にならないように努力はしている。

・空き家を利用したい人のなかには改装して芸術活動されたい人もいると思う。どこまでリフォームしていいのかなど情報があればマッチングしやすい。

(事務局)

④【地元出身者との連携強化】(資料13頁)

⑤【地場高校との連携強化】(資料14頁)

⑥【異業種交流の推進】(資料15頁)

⑦【都市核の競争力強化】(資料16頁)

⑧【子育て支援等のマーケティング強化】(資料17頁)

このことについてお答えいただきたい。

(会長)

・時間の都合で一括している。ご意見を頂戴したい。

(委員)

⑧【子育て支援等のマーケティング強化】については現在保育園・幼稚園の保護者やまだ保育園に入所させていない保護者を対象に調査をする必要があると思う。小学校入学を機に家を建てる方が多い。

保育園・幼稚園にここ3年間で賃貸からマイホーム購入された家庭がどのくらいいるか調査依頼をすれば数値化できる。宇城市では4月時点では保育園に入所しやすいが、中途入園は難しい。中途復帰の場合でも見込みとして12月に申込が出来るシステムができないだろうか。

⑥【異業種交流会の推進】については開催可能だと思う。

⑦【都市核の競争力強化】(資産の有効活用)について、金融機関は不動産業ではないのでセミナー等でご紹介は出来る。

(住宅ローン金利引き下げ)について、現状、金利体系が細分化されており非常に安い金利で提供している。特定の自治体によって金利を下げることは想定していない。

(行政への住宅メーカー紹介)については可能。

・異業種交流の件は是非とも進めて欲しい。年齢別や階層別など横の繋がりが出来るような交流がいい。参加呼びかけも協力したい。

住宅ローンについては行政で利子補給や助成制度をつけるのが現実的ではないか。住宅メーカー等の紹介も可能だと考える。

(子育て支援)

宇城市は県の中央に位置しているので公務員が家を建てるケースが多いと感じる。若い人が家を建てるのにも予算的に可能な地区ではないか。

・300人ほど職員がおり、松橋高校と連携して採用を行っている。人材不足の中、宇城市でなるべく働いて欲しい。若い人の力が欲しい。行政も市内高校の若い力をどんどん活用して欲しい。

・地域との連携、開かれた学校作りが子ども達の成長・育成に大きな影響を与えていると考えている。

地域との連携の中で生徒たちが自分を磨きながら、宇城市を好きになって宇城に暮らす子どもを作っていきたい。

・モノ作りを通して地域との連携を図っている。

生徒が自ら課題を設定して解決していくカリキュラムがある。相談してもらえれば、そういった課題研究のテーマに取り上げて地域と連携することも可能。

非常時の発電システムについて宇城市からアドバイスを受けた。その繋がりで生徒の一人が本当に宇城市の事を好きになって市役所を受けたいと頑張っている。そういう生徒が一人でも増えてきているというのが現状としてある。

以上。